

20050

血管内皮機能検査(RH-PAT)の検討

【目的】血管内皮機能障害を測定、評価することの重要性や必要性が認識されてきた中で、どのようなファクターが値に影響するのか、医師に結果を報告する際の注意点はを考える。

【方法】血管内皮機能障害を評価する機器として H25. 12 月に当院に導入されたイタマー メディカル ジャパン社製 Endo-PAT2000 を用いて H25. 12 月～H26. 5 月までに行われた 233 例に対し、その他のモダリティーも含めながら比較、検討する。

【成績】CAG による冠動脈内アセチルコリン負荷により NOCAD と診断された群とそれ以外の Non-IHD 群において対応のない2群間でt検定を行った結果 $p < 0.05$ と有意差があり NOCAD で血管内皮機能の低下が認められた。

【総括】血管内皮機能を測定するにあたり食事による血管内皮機能への影響、さらにエストロゲンによる血管内皮機能への影響なども加味しなくてはならず、施設内での標準プロトコルを定めるということは重要ではあるものの当院での日常業務の中ですべての条件をそろえることは困難である。その為、医師への結果報告の際にはそれらの背景をふまえたうえで検査結果を提示することが望ましいと思われる。